

日本におけるワイン

—ワイナリー、ワインツーリズムと農村社会の発展

11月18日（日）

10:30～12:30

上智大学10号館3階301会議室



近年増加傾向にある日本のワイナリー。現在300社程度が日本全国に点在している。しかし、このうち中小規模のワイナリーが9割を占め、またその中の3割は経営課題を抱えている。ワインの需要と供給のバランスも含めてこうしたワイナリーが直面している経営状況は複雑である。本ワークショップでは日本のワイナリーを事例に多様な社会性の中にあって初めてワイナリーの経営が成り立つという事実を明らかにする。また、ワイン生産者として以外にワイナリーが社会にあってどのような役割を果たすことができるのか、ワイン産業が農村社会の発展にどのような形で寄与できるのか等を日本、および海外におけるワインツーリズムの事例研究を例に検証したい。

発表者

竹内三幸

日本航空（株）にCAとして24年間勤務後、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士課程前期課程修了。ASAGAYAコテージ会員制サロンを主宰、明治大学リバティアカデミー講師。現在の関心は、ソーシャルキャピタル（社会関係資本）としてのワイナリー文化について。「PRESIDENT WOMAN」「日経おとなのOFF」などに記事を掲載。

Wang Chuanfei

2017年に上智大学グローバルスタディーズ研究科で博士号を取得。博士論文は、文化社会学の観点から日本のワイン文化に関する考察を行った。現在、上智大学比較文化研究所特別研究員。日本を中心に、文化体験としてのワインツーリズムと、日本国外での日本料理文化のグローバル化に関する研究を行っている。

ディスカッサント

上林壮一郎

デザイナー、京都造形芸術大学准教授。千葉大学大学院修了。京セラ株式会社勤務後、ミラノのドムス・アカデミー、スタジオ アンドレア・ブランジを経て1999年スタジオ アルキメデス設立。2008年より京都造形芸術大学准教授。2016年より北海道余市郡のヴィンヤード、ワイナリーの視察を継続。共著「モノ学の冒険」（創元社2009年）

言語：日本語／事前予約不要／入場料等無し

協賛：仙台秋保ワイナリー

Sophia University Institute of Comparative Culture : 7-1 Kioicho, Chiyoda-ku, Tokyo 102-8554
Web : <http://icc.fla.sophia.ac.jp/index.html>



Sophia Open Research Weeks 2018

11/9 fri. — 23 fri. Sophia University's Yotsuya Campus

